奥

へ 5
1902
14

へ5
1902

帝國圖書館藏

天ちれく

鬼子

暮つくや宇山ゑ出れめ鶯ゝ

北よりもちゝ雲さうせほゝ毒

、

うゝゝゝみすれみちゝゆゝし秋の雨

思孫

ゝ一落のり清すゝゝゝ木立

、

帝國圖書館藏

人の扇やうとおもふ折もあるを　冥々

ささひすもるを折しこそ哀なれ　秋支

恋

佳淀山月と又見れば浮雲　芳象

法やまぶるとしあはんと偽作　吾石

永夕月旭さしそめの花　白人

さそれの月冨士飽て茶筅挽　似舟

松の木れさそ家よしあるを　冥也

松葉の毎れ雲ととまりて

すてゝ中月ぬるれ

この秋をかくて自と又たゝれ　西河

志ゝ新やまもるゝもちゝ鶏　疎苣

木れりゝや雨れけあるのゝ　五峰

梢もゝゝ馬をいくもゝ時　露秀

ゝの行き家と笑ゝ春の山　安房氏　子直

宣也忌やまれし人は如何　三里

山あゝめ霧くらし人は帰る色　雨考

いくたびて春うかるすまと寿　東嬉

秋の日は雨そそくふるく物ふまん　平角

葛川や蛙うすきに風ふの垢　雑路

六月は涼しき芝生つゝ　春岱

ひつ屋ふや雲は嶋の鳥ゆり　葉翠

雲さ去る男八くそ物ふく　長賀

住屋うたく事あるそ家茂　八風

ひつあるし谷のとあ大よ初子　英里

雲さふく立湯ゆ子ゆ子大新　東裕

海畑よ事世雲は嶋しくあ　素々

ものくふくそ月のくやうの花の新　雄岡

篠のまはやくるる日移つ　庖言

大風やうしほうらう日のもと　西兮
猿町の人とよろこぶ年一時雨　了童
みちのくやるのつもりの石の菊のもと　義乎
さし汐ぬるとて咲くうしの草　阜洋
うるひとや山の厠ぬれ雨　白兆
ぬるやるほうる咲うりの人の家　曾外

旧月の牡丹あれしかりく
事うかれあるもつ屋の横うしハ　年く

元のうえあるる鳥もうるうまま　買月
くるるれのもるるぬるぬるけたう　北風
乙つのを椿杉重刈　梅のくる那　唐く

ある人南部りと言てる
京山と見てちあるとれたる　南山

おもとのうけれしうまりとと民　呑渥
書の秋言を記るるも月和るる　白居

[illegible] 鉄船

[illegible] 菅菴

[illegible] 文卿

[illegible] 埼山

[illegible] 秩川

[illegible] 巣居

[illegible] 栢翠

[illegible] 紫石

[illegible] 美邦良

[illegible] 旭翠

[illegible] 玉亀

[illegible] 蓬山

[illegible] 芳之

[illegible] 蘇林

あすうらもし郭の月を見ん秋の山　曰人

七夕や竹とかすかに夕ぐるの中　学外

蚊のくちもとやしし雀のいとなむ　無底

瓜まして鳴るうりうりとうもち　柯亭

蓮のあしつふしに雨れ降まり　簑虫

風うらしまれもれうる萩　沙暁

うらはしうしの月も美男葛の汁　石丈

山の井の井手柄杓もうるる秋乃雨　竹冠

はるるる毎とはるる毎に来れ入日哉　菊路

笑れほるるれ旭れ重なる　桃巷

洗しうとうたしおるうまれ乃　旭子

水気れ乃るるるれゆるきれるる　寛子

嘘れ秋とうるれ雨れるる　李壺

越後抖藪のうる

立ちるとむすびあつまて旅寿　無乗

草枕ふるさとあとの小夕ゝ邪　沢鶩
ちるは芦は淀野とせ風ふく梁　雲孤
山ゆるは寒ゆるゝ秋　茂女
せゝらぎや流るゝ八橋の甲　尺山

素麺ゆるゝ松風の又ゝ出る
招ゝむ人ゝ清庵と
不あ孫雪のたゝ
ゝ
俳ゝ
六月を

かゝゝ思ふし鷺の白く
ゝ

洗しさの古ゝもゝあかんこ鳥　暁桂
梨の大木は苦とおうむ　日乙二
破ゝ流ゝ工ゝ竹冠
行器の房は　沢雪
ゝゝと七夜ゝ熟　旭子
菊ゝ哭ゝ秋　菊路

名月や [illegible]　竹路

[illegible]　麦二

[illegible]　李義

うれ萩や杉一[illegible]　あれ谷れ坊　懸車

[illegible]　寸雅

笛吹とさそひ出しそ[illegible]　白泉

芽の張めそ[illegible]　亜笛

[illegible]　桑布

ちる[illegible]　且茄

[illegible]　石井氏　君美

こちらも戸を[illegible]　海乗

[illegible]　関坪

雁のめをそこにつくるやとあるさ　陽亜

くさをあしけれおきつしほやいそ嶋山　素月

ちれるやふるるかむらくもきき　視月

澪作やちくしとあのゆくるる　子直

松風れ言もほしきたし故を　文仲

蓮川を

あるそこつくるの森れのあるて　巴子

胡鬼のるやくさ秋ゝ日のあるる　柳女

たくさくさ蓮をあるるもし　可領

ちつや野をかくれのきしを花鶏　空明

指園を蓮毎ゝくもせ沖るかき　巨山

時めゝ多咲の蓮物とゝも　可遊女

松のるるやこ森れ盃乃山　布席

ちくさ蓮るれ稲るかるるるる　蓮川

りくくる蓮をいつれ初めて　蔵六

[illegible] 不休
[illegible] 星眉
[illegible] 雨舫

[illegible] 羅洲
[illegible] 杉葉畑
[illegible] 八十翁 花仙
[illegible] 杉鴎
[illegible] 雄飛

[illegible] 氷壺
[illegible] 文梁
[illegible] 桂蘿
[illegible] 沙鷗

[illegible] 英二
酒のあと [illegible] 素洲

さをしかのうらくよそはくき　岡帛
ゆふ月夜ゑはしの一つ哉　麦湖
十方とゝまりすゝしき菊の花　素来
ちゝこつゝゝ出ほろゝゝ哉の月　鳥門

矢竹伐つゝ小服しゐゝ麦の蔭　俊左
重陽の雨ふるし菊の家　翁宮
明星やつゝこ〻ふやゝ〻ゝ祝　素菊女

たの夜のこゝろ雨ふるやたゝ新ひろう　島秀
経の声ふるしまるゝ法ゝ雨　方壷
田植ゝゝゝやゝゝゝせめれ仏　橋圃
ゝゝ雨ゝゝゝ

[illegible]的亭にて
ほとゝぎすあるじ

牡丹とゝく人の袋戸くすぐる川　子行

垂るゝやワ[illegible]の自　三遥

[illegible]

[illegible]　蓬寸

[illegible]ふ二[illegible]　知中

[illegible]川舟中

[illegible]　蒙丈

[illegible]

[illegible]　露英

[illegible]　一鳥

会歌の[illegible]とする[illegible]夜網　二[illegible]

生海苔千　旭出　家のうち　和鳴

三[illegible]　[illegible]　橋雨

[illegible]　[illegible]　和道

[illegible]文[illegible]句と

六月十三夜さの月ふめる風雅　季雄
くるる間やあらし吹山あれどころ　宗超

まのゝ山のくしけるやまのくつ苔　素蝶
すゝはらう一こゑはつる木瓜の露　白兎

出羽三山須礼

山一日あるゝ一ゝ秋の風　麦因

雲よりいづる月あるを秋急ぐ雲の色　泳蕉
うゝひすとゝ人ゝ秋ハ深あるを下　蕣楷
芦の月ちゝくゝ鳥れけるゝ　呂蝶
ちれとるやゝ中市あゝ蓋の　風後

三日月ゝ清もゝあるよ樺寺　梅左
あゝ丸雲市金かゝしめ菴ゝ　渚弓
見ゝゝつゝ三ゝ草野の奥　維新

[illegible]

[illegible]　　琴二

[illegible]　　桃く

不忘山中

[illegible]　　青良

[illegible]

[illegible]　　春魯

[illegible]　　一菊

[illegible]

[illegible]　　李光

[illegible]　　柯國

[illegible]　　釣翁

[illegible]　　五澄

[illegible]　　文翠

[illegible]　　文何

[illegible]　　一瓢

[illegible]　　西蕊

海の絶ちたるし宿のさくらうち　青牛

二月の望あたりなれば海を

咲いそめしさくらの梢のちれこぼれ　湖秀

花のまゝ酒人あるて落ようを　さる篠

しをりたるまゝ雪をたゝし冬木立　古槍

駒ならや洲をたゝ柳へたて垣　瓜雄

うちつるも眺うるものゝよくれの月　柳城

ゆいなれ嵐の根くらべ雲の春　乙朝

稲の穂ゝ杉の風あるうち　壺春

蹄林曲渡の行くうちまゝ

のうれ行くうちまゝ

えらを粥焚おろかか湯うち　素竹

山路ゆ春ゝうちのうちうち

苗代乃泥重ゝ春ゝ弱ゝ雲　寸坡

辞ゝ雲も思ハし　不楓　斗水

中山の杉のうちも月夜うち　壺中

咲うちうちうちまゝ沢桔梗　宗石

[illegible]
のをくれ
とても減れ　まつ[illegible]
鴨ふ[illegible]やあ[illegible]　双魚
[illegible]　一水
[illegible]　五岳
[illegible]　乙鶯
[illegible]　旭舎
[illegible]　久恵
[illegible]　つ[illegible]

梅ふる鎖めよ[illegible]　吳峰

江村曳杖

芦の[illegible]小渦[illegible]　曳尾
[illegible]　[illegible]
結揃[illegible]　巴陸
ふしの[illegible]　一二
涼しい[illegible]笛ふく　蓬原
[illegible]　青莎
[illegible]　[illegible]月

時雨

見るうちや休しらぬ秋沒方の　大呂

此夫亭昂車

志ゝ拔うゝ〳〵さき牛の節　乙二

淡　京菊ゝ郭酒ゝ紙　文卿

笠まうう毋衣夏ふ人を見る生す　笘庵

門れうちまゝ作して来る　淡　芳之

いうるすかうろ見ゝ手　マ

始くるのゝれ出さうまぶく　咲　二

伊勢使り〳〵京の歌の歌八　之

這入ふほの歌ゝ　扣ゝ母し　唐

涌もゝ拔ゝる淡路の思しや　二

如夫ゝゝ作る　志ゝる　マ

拾ふる友をしたがへて　永平寺　庵
月をすしあつとしるすつく島　之
ゆとをやしたひよ無茶をかきあつ　つ
佐野田を材とす矢張り有　二
足利の箱ち富をうしやうす　之
麻いせ色はしれ油のかすもの　庵
吹風も花の香とはくるん　マ
ゆすぐ方へ　ゆくる多海鷗　二

言解を見てはや咀の鳩　哲義
かすもすこもくるる月　乙二
立ちうくきすと変ぬ　義
小舟をかりれ　小西永山　二
えいしく松兼樊多の更　義
砥形のもちれ粉をこはし　二
乗ふ者もめてくまを移よかをひあ事　義

出羽の羽黒にまうでしたるに

七月七日茄子の味もあり秋まる　長

梯菊の手ごとに花のつゆあるに　二

ふるさとやそこの秋十載　長

はのかしら墓掃よりけり　二

塞翁の馬とのたまひ　長

野の雪てしもを田のとかし火　斗水

醒ヶ井に世にあらがきもくし　青莢

むしろ小あまる歳の暮　大呂

さるまゝにさるまゝ年の暮　三安

すまるを抱るかな寺の山　春魯

みち中へ出て里のうら空　乙因

峰の雲志ぐれ出て苗の月　焼桂

新うの中の吉野山の雪の明ぼの　巣居

杉風子孤の老る身の秋長　可領

人のまことをひとり思ふ　桃子

そつちきしの白を

酒もよく使し身をうけまあ　竹冠

森よりも松をくらしあめり　無庵

正月を亦来たるの椿うり　柯亭

杉うれや大江のよりる屋根の上　李光

屋ら銭時雨ら月をしぐれ　青苔

ちくれをまつ来ら弟ら戸八ら　寸雅

りくれやタ陸のふる山のまを　海楽

伊勢ら中

やはまをの吹ちをやまを風　李素

けふもやまをもしら九月尾　石丈

その屋やをもれ中もつ祐　陽奥

をちをやふ持の尾　一菊

日のくれてあり経べきうら白椿　雨舫
さて来ぬ法師ゆゑ物うき菴の鶏　二葉
京鳩のあしびかくれもなくて　梨屹

六浦夜泊

秋しらぬや海ちかき稲葉　冥く
男ふりもたれぬ毎に寒ぶる　三徑
つゆ寒く起てもの毎よ長閑なり　無外
旅人もなほる山路丹楓の間　年く

寒蛩
橋雨
鳥秀
無乗
美都良
双湖
柯田

書閑て寒しもあるうら秋
酒爽かれてもたちぬ此の月
菊黍や少ちよの山をかすむる
り来れとなくふれ笛の孔
六月れ人の手ふれ覚う秋
人ぐくてる極道の屯こ仆ぬ
ぬりあけて法ぬ
奥ふれを刈し試かく初あり

ふえさしれ立れて蛙やうすの音　蛙眼
うしろの月よ海の月れ光の中　の長安
ほうの事や はとうの人れけさ八くうの　農奥
雲ゝ 横松葉の富るふ寺の郭　城山
うしの夜れ蒼戸ゝうす屋さう屋の蓑　旦茄
リ くれのけたうく求めうの夢　蓮寸
ほうよ菱者のちよ待つ
馬もうて おく秋うまるふ神の旅　楚川

蔦くれや袋のうみ子えし畑　夢川
はんのうみて おうしう萩の夢　押女
うえ稲 世れ木うく秋くんゆうし　雄淵
雲ゝ秋ゝ 言ゝ俳うれ山の杉　雲路
むくうれ木屋のうきゝ山きう郭　桑布
酒田あう人の落ちる
月山中ゝ いつうゆうれかゆ落ちる　栗丈
うれ白れ峰 うくふ杉うふ　旭水

菊屋家業やかた川　布席

市牧野ちかの屋敷より　瓜雄

苗つゝしこゝろあらしの雷　桂蕉

いつもれ行くもれ出る月　文沖

西巷のうち

茶筅賣京れ市後り老とゝ　恒丸

親書三十四所巡拝の時

麻畑やとゝしつゝる奥ち海　笘菴

新宮やせゝんゝあるし吹　麦洲

陣ゝのゝおもゝてゝちゝれものよ　和鳴

庵洲の小舟名さけもちん奈　維行

茶キ人ゝちゝる谷月一枝　素来

陸うゝ鑒の潮度れ舟雛　素菊

鮫取ゝれ月もめゝてれる馬　沢我

茅ゝゝいひつれし庵の月　菊活

舟ゝろとゝれゝゝひゝも

住ゝうゝえゝゝゝゝれて

[illegible]ひうくうう古[illegible]
[illegible]山下のあうとさ[illegible]
[illegible]つきうわらもひ[illegible]
あつ[illegible]いのちかくさんぶ[illegible]京
[illegible]しみ[illegible]月夜うも
[illegible]小野[illegible]波と[illegible]あの[illegible]
[illegible]ふけ[illegible]しも[illegible]いとまも
雛の[illegible]鄙の[illegible]

巨山
釣翁
尺山
蓬山
乙湖
雄花
岡鳧
英二

名[illegible]とめ[illegible]ての[illegible]
馬[illegible]
三井寺や[illegible]
あ[illegible]ぬ[illegible]
梅[illegible]
家舟の[illegible]

[illegible]
[illegible]あと[illegible]

[illegible]
[illegible]
松隠
文翠
[illegible]車
[illegible]峰

[illegible]月

あるかなきかの秋の月　斗水
たちこめて木ずえもうすし　壺中
医王寺の夕清らかにして苗代に
西りの夕暮すえらかにつゝみて閑　文窓
ゆるがれたるこゝろ　徒弓
ゆ里ふかみれて西山の森　李雀
こゝ地ゆたかにして雀のなくし　巵言
あるうるおのゆるこゝろ　桃菴

雁のくぶ一ちのかしてゝ風のふく　白象
とゝ尾うゝとゝ
むつかるゝまのまやあるし　文卿
えらやゆ人もうゝまあれてる　蘇林
梅の月よさうつゝ　朝意
嵯風うゝし後つんむく小春うゝ　古橋
墓のゝゝのゝあるし夜の擂　巴陸
清みてく野市の町は日くるゝ　一丸

庵にて木瓜のもとなる山の梔　星有
川鳴や雪とも人のゆふ萩の花　氷壺
雪のうちとうつくしきさくら　壺春

江都富居

鶯なくやつくづく富士よほとゝぎす　漆美
夏鶯のさゝ別るゝ時雨うす藤　宝明
杉風も眠よしむとて芝咲　曳尾
ゆやゝゝ時雨あゝ白し　和道

まゝこやよく庵にて起し寒れし　丑澄
山うすむあゝ雨や馬とうとまる　沙鷗
まゝ人れ秋の野ちれ泥雨ぐ　梅五
こかゝゝや黄に染つもるもろ　柳塚
蓑ぬれ山もふれれ初しれ　ゝゝ安

人九れやゝうゝ

ほのゝをもゝ人や桜のくれ　大呂
ゝゝゝやひゝゝも春ゝ世の人と庵る　嘉晋

剃ることなれば歌詠みもすまじ　夜来

家老者ども中より抽もうし　麦羅

附録

一ゝ句とつくんとゝ思ひ合の影もあれ

たゝ夜明るもし夜明もし大陸鶏月まで

雨降あのし百人ある人ゝ思ふ

畳敷と百年れ今日の門出ますかゝ分

ゝ法ゝ多ゝ多ゝ多ゝ多ゝ多ゝ多ゝ

作者大一の句ゝ一字れ眼目の文

ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ

事と氣象雄壯吟味すべきの事
なるべし附り十七字つゞけられたいはゞそれ
なりしとんもつゝまる〳〵あるべきる古人我
歌句〳〵をもとしたる時も五七五れうかんん
を集のめ〳〵よ事ところあるべきを句のも
なりとうねりて豪強なるべしして後上手
を見れば実易なる景物をもて一句をもて
と合点〳〵ある人多よりて冥れ海辺て
鴨の羽ばたのうるもあるもし白き海辺て
かのこのよもし鴨れ羽とあるもおれしん

の句なるべしとい〳〵れこれ別れ七字作りの編
まるべきもし不生まれんの句作といふべきと共
されども顔無きもれ歌なれし
一 許六曰句を取合せて作れば時を句作く
出来るべきの初学の輩これを思へし切者
よりて取合れ論もあれ又発句
歌の曲物と発句作〳〵べきもこれ
なるべきの自然廓れ中よりもれ天和のる
中なるべきの太素曰くゝ曲物の中よりきもの
なるべし発句即興感偶なる物を多八内

あまよりとりあつめたる酒を酒ちまくれく
れば古人は糟粕を利す里まちまち出る
吟を乳時にも白雪のしらたまの一等乳を
はなる初雪のたもとのごとくいへるとこ
ろ涼しく味あり

一

風雅の道も詩歌連俳古今同一事なり
古人は乳酪を味ひ甚境を味ひ
其味を白とつくり立る賞翫と絶りと見
覚えて落ちかたきあの色ひ物のとくす
るつりきあひ不の白う出るやうあれし

むかしの人のし部を立て拾ひ集めたるもの乃
ちとうしとるとくはたるもたる物も
名をやゆ湖あるふうふ七小町ちれ都も酒
ぬまくよ
あそひ不ちくいつふ白よいくりて出立の
ちを系稲中はけとりのこて古人ふ才とかり
るとうふ京とと学ちれ加りうを成角も
白れのひちうるかを杜律山家集を挽藉
あるしかくと出色れ生ちもドおのちち
古人はあるとふむてくれ古人は求ちをと

りとなしとなくる俗ともなしてなどぬらん
しるべ求なれども求れていつとても家
ごとの句作する〳〵
先人のつふ古きし新句れ句を五七五れらちて
云ふれめしまよるれ歌しまはくるべしと
人ふとまちうひてさしてる我云ふさして
ちきしてらをぬりりとあやまる事句し
又作まりしと注ける句よむし今の上よ
なもの千鍛百練しる後いまるとたらん
さもてふやまる句りて中品の

信もいたらんれて歌ふれふ句とよりと
古まれるすあまふふんきはくつらく俳慶
とふのあ句きたくたぬるあんて
古人のるうくるれやしまあるる歌ふ家よ
古き語句れ句作よ園点とはるるあし
と味て古人れんと用ることて立十七字
ふれ園点とはる句もあり

趣向のあり・しれ句

初しぐれ稲もかゝ蓑をかしなく　文代

白ゝや芋の葉の露ぬれぬらん　、

もゝくさの花はぬれぬし鴨の羽　、

まきあらし山やもみこれきくしぐれ　嵐雪

菊畑もむしろ織りとれさう案　、

未枯や馬と餅つくつれ山　其角

ものゝ切るゝいよし惜し鉦の音　、

笠ぬぎ行雲ましや秋の月　文仲

夕立やけむりまるもやゝ竹の塚　、

鉦ならす行手はまるり角力とり　太来

法隆ひとやふるひの面いうるの音　嵐雪

只手れいろはあ竹ゝ玉の時　、

ゝゝゝれ歌句の句

あらさるや三鳥と思る山つ雲　野梅

八九月乳や・いつとれちの見　嵐雪

名月や出れば出れば五十一箇條　芭蕉

右武蔵守義時仁恵を先とし
政以去欲先とし堂あり

あるじ仕る旨

峰の雲すこし晴るる月　楚雄

ふのとれや一本残し松ろり　宗因

庵の松もまこしうなめしつ

るの月や門さしてりかすかさ　信徳

秋のさぬ　ぬきてしうけ　れ横う那　許六

ひくしと　望とふ　へうをねぶ　芭蕉

古ふ　紙白　ろ五七五れ内て

ろ　ぬ　よ　ふ物り

白

鳥賊　夏れ　ま　ば　ん　義

七日　雑　れ　雑　う　、

夏の　る　大　揃う　那　、

ま　の　ま　見れ　ま　、

節季いと雁のこゑふ出立ける　丶
あゝあやし伏流よ接こふての川　丶
ほゝゑみや鶯れ出せし庵の人を　丶
なつもれ舟子庭つゝあををゝ　丶
某種売たゝやゝ乳風のほきん　丶
ゑ庭とゑゝこゝまゝ鳥れ小鴨うゑ　丶
脊戸口れ入江千の雨ゑ毛　丶
常宵ゑゝ元こんの降ゝ来ま　丶

丈草

病中

山崖もそれゝ見ゆ冬ゝ　丶
ゝ桜ゝ月ゝゝ雨かゝ冬ゝ　千角
重ゝ山ゝ雲の鶯ほゝ書　丶
少ゝ山ゝいゝこゝゝゝの原　丶
なゝつゝあゝもゝゝゝの川　丶
ゑゝゝゝゝハの唐れ旬ゝ鶯　丶
酒常ゝゝゝれ雨ゝ　丶

笹の葉ふく枕もとや　けし柴
すむ身や　髪くと　さ　ぶ　ん　、
岸の屋や　煙をなげし　孫の手　、
鶏の声や　おもむろ　ぬくもり者　素丸
ふくひすもや　こ　ち　力　や　ら　ま　、
しれとふれ　ま　る　お　ん　富　の　門　、
山雀の里かや　ま　す　ぶ　し　を　ば　ず　、
あ　り　雇　も　ら　ぬ　宿　ぶ　ん　初　よ　の　日　、

猫のあやうあれ　許六
清ふれ上ゝ出ゝ　ま　の　月　、
血ゝ　ゝ　ゝ　ま　負　れ　雇　や　む　す　我　、
初　ま　や　餃　て　ぶ　ん　係　人　の　墓　、
ぶ　る　ゝ　切　ゝ　む　里　れ　菜　汁　う　る　尚白
石の高　ま　ま　ま　ま　ま　る
か　ゝ　ま　ま　ま　と　味　ま　る
ち　白　れ　屋　根　よ　埋　ぶ　れ　ま　る　、
名　身　ま　蜂　も　及　ぶ　横　う　れ　嵐雪

燈ひらきし日とさしあの出雲ぶ
松風の里を初しぐるしらせ　　、
萍や月とともやら池の野　　、
きゝ賞もまた暮ゆくしゆやらん　　、
高のもいろ初るすゝきや　　思貫
秋の雁と聲ひゝすきぶ　　李由
ちのこれとみゝちまつ峰の雲　　、
ゆくゝきぶの京弼まるゝふるえ付　　支考

ふるつゝあ〳〵秋の花の角　　、
そゝの花まづや玉ゝ岡の松　　孟坡
三日月や寄ゝ上る庵の角　　、
都さや梅の芳ゝ秋の蜂　　、
あるゝ人形ゝ花の花　　、
うき影を引つる松のあらしぶ　　李由
絞ゝふけゝ丸きのゝうゝ那　　木導
鶏ゝゝやいづゝあゝむ柚の門　　孟元

いつまでか雪を踏て吟ちとり　千那
誰ういけし南大の志の時分をしん　信徳
うすくとりけたらくもれ梅うる
虹切幸彦や田に延てこの家　昌房
寒る秋やすくらし浦の足のあと　素山
そのかぶ足れ打ちきりしん　為兮
ふ飛ぶ雲の枯葉うの秋　尼智月
舟しのぶ小杉すこせれ紙もを事　旦菜

らんかをたをられ和のうまぐ　胡及
あれ野や蕎麦むせるきりしす　泛吾
弾ぬきを松風やこりこりこ　登水
えを野やりるを多ぬしまをそ　詠通
あさうやいのちとをもち　青庚
今奥れうさしまる置んきくの枝　曾良

天の一さとり
蟬の少々の法師
るるさしとや恒河の
たくて多き圓通寺
もすくも余
かくのごとき

[illegible]
[illegible]
[illegible]人の面のさまにて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆゑなく柄あるものなれば何の恥ふ
ことなくてこのものを得度せ
さるべきを人の作りたるものとも
魂なきものとも又鼻高くもなく
をるものなれば五十年
乃作りたるものにて乙二てらるる

乙二の金剛力をおしつけ者る柱
瓜たるべし皆その白の鼻ともも
ゆゑも異なる大事此たるり
けたるものなれば自分の度の
ものとなる手変化たる今
他の同事鼻を失念する

はるかに者ども人のあまたいでたちかく
とりやなりなむとて管弦のまけの根
白くまの四ちらてくいたく思ひて
ちりて射矢の三日ばかりあて
五六羽の杵の鼻に付きたりさて
初めてまふ志をすうくする

つゐに違まし侍りてあのまけする
つ杵四ちまさを白さる堀ちり
なるあるにくいとはるふ
ちりちりさ完ここ

思ひ出草